

冬期の転倒災害防止のポイント

積雪・凍結などの転倒災害のリスクが高くなる冬期間は、以下の対策が特に重要です。

◆ 天気予報に気を配る

寒波が予想される場合などには、労働者に周知し、早めの対策を実施しましょう。



◆ 時間に余裕をもって歩行、作業を行う

天候による交通機関の遅れが見込まれる場合は、時間に余裕をもって出勤するようにし、落ち着いて作業をするように心がけましょう。

屋外では、小さな歩幅で靴の裏全体を付けて歩くようにしましょう。

◆ 駐車場の除雪・融雪は万全に、出入口などに注意する

駐車場内、駐車場から職場までの通路を確保するため、除雪や融雪剤の散布を行いましょ。また、出入口では転倒防止用マットを敷き、夜間は照明設備を設けて明るさ(照度)を確保しましょ。

◆ 職場の危険マップの作成、適切な履物、歩行方法などの教育を行う

職場内の労働者が転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、労働者への教育の機会に伝えるようにしましょ。また、作業に適した履物、雪道や凍った路面上での歩き方を教育しましょ。

転倒防止に役立つ靴と保護具を活用しましょ

雪道を安全に歩くには、靴選びが大事！

< 靴選びの3つのポイント >

- ▶ 防滑性: 靴底が滑りにくいこと
(やわらかいゴム底のものは、ゴムがすり減っていないかもしっかり確認しましょ)
- ▶ 撥水性・防水性: 水分が靴の中に入り込まないこと
- ▶ 保温性: 靴の中を温かく保てること
このほかにも、靴の重量やバランス・屈曲性・つま先の高さもポイントになります。



柔らかいゴムを使った靴底は、路面に対する密着力が強いため滑りにくくなっています。

足のサイズに合った靴を選びましょ！

サイズが小さい靴: 足指が自由に動かしにくく、バランスを崩したときの踏ん張りが効かなくなる

サイズが大きな靴: 歩行のたびに足が前後斜めに動いて、靴のつま先やかかどが足の動きに追従できなくなる